

第1回 学校関係者評価委員会

1 実施日 平成29年1月19日 (木) 午後4時～5時40分

2 会場 校長室

3 参加者 学校関係者評価委員 森本 一 (教育振興会会長) 中村 博明(教育振興会副会長)  
秋山 幸一(教育振興会副会長) 秋山 君裕(教育関係有識者)  
秋山 弘仁(百々育成会会長) 市川 孝嗣(主任児童委員)  
三浦 聖人(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)  
中畷 広美(保護者代表・PTA副会長)  
学校側 築野 一彦 (校長) 名取 昭彦 (教頭)  
田原 和仁 (教務主任) 依田 千恵子 (生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容 ※学校の自己評価について説明

○教職員自己評価 (教務主任) ○児童アンケート (生徒指導主任) ○保護者アンケート (教頭)

5 協議された主な内容 ※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

自己評価, アンケート, 教職員からの具体的な学校の様子の説明等を題材に座談会を行った。

(1) 学力向上・児童の学習状況に関して

○「家庭学習に対する意識が低い」「年に一度は、全員参加の学年部会か学級部会をしたい。一番聞いてほしい保護者はいつも参加しない」とあるが、保護者の意識や児童の学習状況はどうか。  
☆宿題をやってこなかったり忘れてきた児童には、休み時間や放課後やらせている。宿題をきちんとやってくる児童とそうでない児童とでは学力に差が出てしまう。また、保護者には、県教育委員会から示された「家庭学習のすすめ 学びの改善八か条」を配布し、学年通信・学級通信で呼びかけた。特に八のつく日には、重点的に取り組みを行っている。今後も授業の工夫と家庭学習の充実を図り継続して取り組む必要がある。

○全国学力学習状況調査や学力把握調査は、何年生が行い、結果はどうしているのか。また、保護者アンケートからは、「基礎学力が身につけているか」の項目で肯定的な意見の数値が前期より下がってしまったが、児童が基礎学力を身に付けられるように努力してほしい。

☆全国学力学習状況調査は6年生で行い、学力把握調査は3年生と5年生で実施している。これらは、児童やクラス・学年の理解の状況と課題を明確にするとともに今後の取り組みに活かすために実施している。これからは、数年後の児童の理解度の変化にも注目していく必要がある。

(2) 安全管理に関して

○自己評価の完全管理の項目の数値から見ると、管理はほぼできているように思う。課題と改善策に「児童一人一本あてくらしいにペットボトルの水が用意できないか。」とあるが、地域の防災訓練では、防災訓練のときに一人一人に水筒やペットボトルを持参していただいている。学校でもそのような取り組みを参考にしてみたらどうか。

☆学校では、火災と地震を想定した避難訓練を年度内に5回計画している。避難路を確認してからの基本的な避難訓練や引き渡し訓練、また、予告なしに行う訓練も実施している。自分の命は自分で守ることを原則にしながら対応できるような訓練を行っている。

引渡し訓練を実施しているが、全児童をすぐに引き渡すことが可能とは思わない。そこで、ペットボトルの件については、風邪やインフルエンザ予防として持参している水筒のこととも兼ねながら検討していきたい。

### (3) 楽しい学校づくりに関して

○保護者アンケートの子どもの様子の5項目中4項目で肯定的な意見の数値が下がってしまったが、今後の課題としてとらえて取り組んでほしい。

☆学校でも課題の一つとしてとらえ、職員間で情報を共有するとともに保護者とも連携して取り組んでいかなければならないと考えている。3学期には、各学年の授業参観と学年部会が2月に行われるので、保護者と話し合う話題の一つとして協働的に取り組んでいくことが必要と考える。

☆すべての学年のすべての児童が問題なく生活できているということはいつの時代にもなく、いろんな関係の中で、たくさんの情報から大切な情報を取捨選択する力が必要となってくる。人間関係の希薄さが叫ばれているので、日頃から気になる児童には、特に声をかけたり、情報を職員が共有したりしながら、3学期のまとめを行い、次の学年に引き継いでいくことが大切と思う。また、保護者とも連携して子どもの成長に支えていかなければならない。

### (4) 基本的生活習慣に関して

○保護者アンケートの「子どものことで気になることがあれば、すぐに学校(担任等)に相談している」の肯定的な意見の数値が下がってしまったが、保護者は「相談していない」のか、「相談することがなくなったので相談していない」なのか、はっきり分かりにくい。質問内容を変更したらどうか。

☆「気になることがあれば」と書いてあるので、すぐに相談することが減ったととらえたが、質問内容が理解しにくいようなら、来年度に向けて検討したい。

### (5) あいさつに関して

○地域でよくあいさつをする子どもが増えているようだ。今後も指導を続けてほしい。

☆登下校のときは、元気よくあいさつできる子どもは増えているように思う。学校では、児童会の主体的な取組をとおして自らあいさつできる児童を育成するように「心のリボン運動」を展開している。今後は、日中来校したお客様にも進んであいさつできるように、教師側からの声かけとともに日常的な取り組みと指導の充実を図る必要がある。

### (6) その他

○児童アンケート及び保護者アンケートからは、全体の傾向や変容は理解できるが、各学年または学級、男女別の数字を出した方が各学年の特徴や課題が明確にわかるのではないか。

☆児童アンケートと保護者アンケートはそれぞれ担任が見ているので、自分のクラスのことについては理解している。アンケート結果から課題を見出し、3学期も取り組んでいかなければならないと理解している。

○学校の情報を広く公開するために、ホームページを活用したらどうか。

☆個人情報には、十分配慮しなければならない。

○写真は掲載せず、文章だけでも掲載したらどうか。

## 6 全体評価

全体傾向を把握するため、[A:そう思う][B:ほぼそう思う]評価を肯定的評価としそれら合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』、[C:あまりそう思わない][D:そう思わない]評価を否定的評価としそれらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある』と判断した。

### 【全体的な傾向】

上記の評価基準からすると、教職員・児童・保護者の3つの立場とも、多くの項目で[A][B]評価の合計が80%を超え、肯定的な評価がされている。[C][D]評価の合計が20%を超えるものは児童アンケートの1項目のみであった。

一方、学校生活全般についての調査項目（児童：「学校へ行くことが楽しい」 保護者：「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」）では、ともに[A][B]評価の合計が80%を超えている。教職員への評価も総じて高く、児童・保護者が先生方の努力をよく認めていることがわかる。以上のことから現在の本校は、概ね『満足できる状況』にあると判断できる。

## 7 今後の課題として意識されたこと

- (1) 保護者アンケートの「子どもの様子」の5項目中4項目で肯定的な回答が前期の評価より低下してしまったことを課題の一つとしてとらえ、すべての児童が楽しく学校に通うことができることと基礎学力の定着等の学力向上の取り組みを今後も継続的・組織的に続けていく必要がある。
- (2) なかま関係づくりをとおして、「学校が楽しい」ことが児童にとって心の安定である。人間関や家庭環境に配慮しつつ、日頃から児童一人一人に適切な声かけをしていく。
- (3) 学力向上も課題の一つととらえる。保護者アンケートから「先生は、基礎基本の徹底や学習のつまずきなどに積極的に取り組んでいる」の項目では高い評価をいただいたが、「子どもは学習がわかり、基礎学力が身についている」の項目では、肯定的な意見が前期より低下してしまった。今後も日々の授業を見直し、児童にとって必要感のある授業づくりを心がける。3学期にしっかり学年のまとめを行い、次の学年につなげたい。
- (4) 地域でよくあいさつをする児童の様子を評価していただいた。学校での日常的なあいさつ運動と児童の主体的な取組を充実させ、さらに元気で明るいあいさつができるように指導していく。

## 8 特記事項

特になし

記載責任者

学校関係者評価委員会委員長（PTA会長） 三浦 聖人

## 学校関係者評価委員会

委員長 三浦 聖人 様

※ 学校関係者評価書（案） 在中

日頃のPTA活動への御尽力に感謝申し上げます。今回の評価書案も、評価委員の皆さんの想いを反映させるべく作成しました。御一読いただき、OKもしくは修正の連絡をいただきたいと思います。近日には教育委員会に提出したいと思っておりますので、1月30日（月）までに御連絡いただけたら幸いです。（大きな修正がなければお電話でお願いします。）お手数をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。